

当協会会員の運河通航船実態調査結果

当協会は、毎年会員各社の運航船舶（外国用船を含む）について、パナマ・スエズ両運河に係る通航実績調査を実施しており、今般その結果をまとめた。

調査対象期間は、パナマ運河については2019年4月1日より2020年3月31日、スエズ運河については2019年1月1日より同年12月31日までとした（統計の連続性上）。

通航料については用船契約によっては用船者等が支払う場合があり、通航料が不明の例があったため、表中の実績は、調査回答船社が確認できる範囲で集計したものである。

今次調査結果の主要点は以下の通り。

- ・パナマ運河は、2018年度に通航隻数・支払通航料とも前年比落ち込み（17年度比隻数5%減、通航料20%減）が見られたが、19年度は回復傾向（18年度比隻数7%増、通航料18%増）にある。
- ・スエズ運河は、19年は前年比で通航隻数は若干の減少（5%減）が見られたが、支払通航料は通航タリフが据え置かれる中、2016年以降4年間連続で着実に増加しており（18年比では6%増）、船型大型化による影響が大きいものと考えられる。



注) 通航料不明や概算等があるため、グラフ中の隻数と通航料総額は対応していない

<パナマ運河>

a. パナマ運河通航実績推移

年度	社数	延隻数
2010	17	940
2011	15	1,003
2012	18	1,016
2013	16	1,011
2014	17	1,106
2015	18	1,160
2016	17	1,104
2017	17	1,267
2018	19	1,201
2019	16	1,291

b. パナマ運河通航料支払実績（確認分）推移

年度	延隻数	通航料	
		千 USドル	億円(参考)
2010	940	207,716	177
2011	878	202,102	160
2012	871	216,335	180
2013	945	237,844	239
2014	1,088	268,615	297
2015	1,160	295,525	355
2016	1,027	303,478	336
2017	1,107	316,329	350
2018	940	252,631	280
2019	1,058	297,483	323

注 1) 上記表 b. の「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表 a. 記載の「延隻数」とは数値が異なる。

注 2) 2019 年度の通航料の円換算率は、2019 年 4 月～2020 年 3 月の平均レート(銀行間直物相場) 1ドル=108.72 円を採った。

注 3) 通航料は概算値を含む。通航料不明分については 0 とカウント。

なおパナマ運河全体では、同運河庁発表の 2019 年度(2018 年 10 月～2019 年 9 月) 実績によると前年度に比べて通航隻数は微減し(前年度比 0.07%減) 13,785 隻となったものの、通航船舶トン数 PC/UMS*は前年度比 6.2%増となっている。また、通航料収入についても前年度比 4.3%増の 2,592 百万ドルとなっている。

*PC/UMS(The Panama Canal/Universal Measurement System) :

1969 年の船舶のトン数の測度に関する国際条約をベースに 1994 年より採用している船舶容積の測定方法。

<スエズ運河>

c. スエズ運河通航実績推移

年	社数	延隻数
2010	11	1,272
2011	9	1,349
2012	12	1,246
2013	10	1,261
2014	13	1,320
2015	14	1,172
2016	12	1,066
2017	11	1,110
2018	13	1,446
2019	15	1,374

d. スエズ運河通航料支払実績(確認分)推移

年	延隻数	通航料	
		千 USドル	億円(参考)
2010	1,174	386,848	338
2011	1,199	414,365	330
2012	1,101	395,163	316
2013	1,092	404,178	395
2014	1,147	432,862	461
2015	1,037	375,905	455
2016	1,000	352,215	381
2017	1,045	375,111	420
2018	1,298	404,302	446
2019	1,286	426,814	465

注 1) 上記表dの「延隻数」は、支払通航料の確認ができた隻数であるため、表c記載の「延隻数」とは数値が異なる。
 注 2) 2019年の通航料の円換算率は、2019年1月～12月の平均レート(銀行間直物相場)1ドル=109.05円を採った。
 注 3) 通航料は概算値を含む。通航料不明分については0とカウント。

なおスエズ運河全体では、同運河庁発表の2019年(1月～12月)実績によると隻数・スエズ運河トン SCNT**はともに増加(前年比 3.8%増・5.9%増)、それぞれ18,880隻・1,207百万スエズ運河トンとなっている。

**SCNT(SUEZ Canal Net Tonnage):

純トン数規則をもとに、スエズ運河当局独自の控除基準を加えて算出する。二重底船の船底にバンカー油を積載した場合その部分の控除を認めない等、パナマ運河や各国の規則とも異なる独特のもの。